

学校だより

第3号

ONE TEAM

高中訓：行動につなげる～考える・表現する・協働する高校生～
めざす生徒像

- 健康や安全を意識して生活する生徒
- 自分や周りの人のことを考え行動する生徒
- 進んで学習に取り組む生徒

人権について

12月4日から人権週間がありました。国連は世界人権宣言が採択された12月10日を人権デーと定めるとともに、この日を最終日とした一週間を人権週間としました。校内では、第40回（令和3年度）全国中学生人権作文コンテスト愛知県大会の入選作文『「正直」になること』を全校放送で流し、人権について考える機会としました。以下がその作文です。

「正直」になること 碧南市中学3年生 杉浦天さん

「○○ウザくない？」

私は戸惑った。○○は私にとっては大切な友達、大好きな友達だ。なんと返せばいいんだ？否定するとその友達に嫌われる。だからといって同調すると、自分にも嘘をつき、○○との関係も悪くなる。そんな考えが私の頭の中でぐるぐると回っていた。会話の中に不自然な間があき、私はやっと口を開いた。

「それな。」

その友達は同調された喜びなのか、○○への悪口が止まらなかった。これでよかったのか？正直になるべきだったのか？心がもやもやする。正解はなんだったんだ…。

その日は頭が回らなかった。考えれば考えるほど分からなくなり、気が付けば外は真っ暗になっていた。一旦、忘れて寝ようとベッドに入った。が、なかなか眠りに入れない。忘れようとしても頭の中はあの一言で埋めつくされている。なんで○○をウザいと思ったんだろう？○○は気付いてるのかな？

騒がしい音が私を起こす。あれから少し経って眠ることができたのだろう。しかし、気分が重い。雨だからということもある。でも、それだけではないと、すぐに分かった。朝ご飯も喉を通らない。髪セットだっていつもの倍の時間を使った。早くしないと、と思ってはいるが、あのもやもやが私の行動を邪魔する。しかし、それに気付いていたのは私だけではなかった。

「てん、どうしたの？」

そう口にしたのは母だった。正直に話そうか迷った。しかし、このまま一人で考えていても何も変わらない。そう思った。そして、思い切って母に全て話した。私の言葉がつかまって、母は私の目をまっすぐ、一直線に見続けた。だからこそ、母になら全て話せる。話してもいいんだと思った。私が全てを話し終わると、母は、

「話してくれてありがとう。あまり考えすぎないで。女の子にはよくあること。本当の答えは、てんが自分に正直にならないと見えてこないんじゃない？」

と言った。綺麗事だと思った。それはまだ、自分に「正直」になれていなかったから。

まだ重い足で学校に向かった。下を向くしかなかった。もし○○と目が合ってしまったら…と、なぜか私も○○を避けてしまっていた。学校はいつも通りの姿だ。○○は声をかけてくる。どうすれば、と焦って体がどんどん熱くなった。だめだ。ここで私がいつもと違う接し方をしたら、もっとおかしいことになる。友達が○○を嫌った理由が知りたい。そう思ってしまった。おかしい、いつもと違う。前は○○とは楽しく笑って話せた。なのに今となっては○○の悪いところを探している。最低だ。そう思いながらも探していた。それは、問題の答えである理由を知りたいからだ、と想っていた。でも、それは違った。本当は、「友達に嫌われたくないから。」ただそれだけだった。その日の学校も苦痛に感じてしまった。



家のドアが開く。母が帰って来たのだ。その日はなんの抵抗もなく学校でのことを話した。正直、あまり母の返答に期待はしてなかった。どうせまた綺麗事だろう。

「てんは〇〇のことどう思ってるの？」

いきなりの質問につまってしまった。

「自分に正直になって。よく考えて。」

初めは、「嫌い。」と言おうとした。だが、母の「正直」という言葉がそれを止めた。〇〇のことを思い出す。悪いところではなく、良いところを。二人で笑い合ったあの日のことを思い出した。〇〇の話は面白い。どんな時でも優しく話してくれる。友達思いで、ちょっとドジなところもある。たくさん思い浮かんできた。それを全て言葉にして口に出した。すると、心が少し軽くなったように感じた。やっと本当の自分が見えた。それを確実に感じたのは私だけではなく、母もだ。

「てんの本当の答えは？」

母は優しくほほえむ。

「一緒に居たいと思える大切な友達。」

自然に笑みがこぼれた。

人には皆、自分の意見をもつ権利がある。そして、自分に「正直」になる権利がある。その権利を良い方向にもつことが、今の日本、世界の課題であると考えます。どんなことでもいい。まずは自分自身に「正直」になって考えてほしい。

この人権週間中、生徒は、「今の自分にできること」をテーマに次のような作文を書きました。自分にもかかわる問題として深く考えていることに大変感心しました。

・「周りがこうだからこう」「みんながこう言っているからこう」と、自分の意見が隠れてしまうことはないだろうか。「人権」を自分から無くしてしまっていることはないだろうか。その行動は、本当に合っていることなのか。みんながみんな同じなわけがない。普通とは何か。一人一人違うところがある。そこを受け止めて寄り添うことが、今できる一番大切なことだと思う。

・私は、誰がどうとかを気にしないで接するというのではなくて、その人に合った接し方をすることが大事だと思います。気にしないで接することは、人によって発言が違うと思うからです。よく「可哀想」や、「普通の人はこうやる」などという言葉聞きます。私は、そのことについて、その人の人生なのに、そのような言葉を言っているのか分からないです。私は、障害をもっている身近な人がいます。その人を見てきて私は、可哀想などとは思いません。私はその人が社会に出て自然に過ごすことができる社会が来て欲しいと思っています。

・人権を守るためには、一人一人が意識していく必要があるけれど、結局、そのスタートは一人から始まるものだから、自分がその一人になれるといいなと思いました。この前、友達と遊びに駅で電車を待っていた時、ある外国の方が、「どの電車に乗ればいいですか」と、恐る恐る私たちに聞いてくれました。私たちがそれに答えた後、その方は嬉しそうに「ありがとうございます」と、言ってくれました。その時、私まですごく嬉しい気持ちになりました。こんな小さいことでも、お互いがwin-winの関係でいれる空間ができたので、小さいことからコツコツと助け合っていくことで、より素敵な社会が作れたらいいなと思います。

令和4年も残りわずかとなりました。厳寒の候につき時節柄ご自愛ください。保護者の皆様には、たくさんのご支援ご協力ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

12月29日(木)～1月3日(火)につきまして、学校を閉校しますので、職員が学校におりません。電話は留守番電話となります。夏休みの閉校対応と同様に、緊急連絡のある時は、高浜市教育委員会(Tel152-1111)へお願いします。

